平成30年度　学校評価表 【自己評価】

三次市立甲奴小学校

経営理念（ミッション・ビジョン）
・よりよく積極的に生きるための基盤として「郷土を誇りに思う心」を育て，地域や社会に貢献しようとする意欲や態度をもった人材を育てる。
・変化の激しい社会の中で，グローバルな視点をもち，国籍や互いの立場の違いを超えて，協調し協働して生きていくことができる力をつける。
○育てたい資質・能力：「活用力」「対話力」「乗りこえる力」「思いやり」

＜学校教育目標＞
すすんで　きたえ　みがき　のびる
社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子どもの育成）
＜めざす学校像＞
○すすんで ・・・・・・・・・・・・・・・・・子供の主体性を伸ばす学校
○きたえ・みがき・・・・・・・・・・・個々の持ち味を発揮させる学校
○のびる・・・・・・・・・得意なことを引出し，自信を持たせる学校

＜甲奴中学校区のめざす子供像＞
「ふるさと甲奴を誇りに思い，主体的に学ぶ子供」
＜甲奴小のめざす子供像＞
☆自分が好き・・・夢（目標とする姿）を持ち自ら進んで最後までねばり強くやりぬく子供
☆友だちが好き・・・友だちのよさを見つけ，自ら進んで一緒に働き，遊び，学ぶ子供
☆甲奴が好き・・・身の回りに目を向け，甲奴のよさを見つけ自ら進んで表現できる子供

評価計画						自己評価								学校関係者評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	指標（効果を見とる目安）【担当】	目標値	7月 達成値	7月 達成度	7月 評価	12月 達成値	12月 達成度	12月 評価	結果の分析	改善策	評価	コメント
確かな学力の育成	「活用力　対話力　乗り越える力　思いやり」を育てる	全国水準の学力をつける（知識・技能，思考力・判断力・表現力の育成）	○基礎的・基本的知識・技能の習得と定着	・評価テスト(国語）で得点が期待平均点を超える児童の割合【石田】	75%	81.0%	108%	A	88%	117%	A	・繰り返し練習することで漢字は定着してきているが，書くことに苦手意識をもっている児童がいる。算数科では，立式ができても計算ミスがあった。（7月） ・国語科・算数科は共に目標値を上回っている。国語科では，条件に沿って文章を書いたり，自分の思いを文章に表したりすることに課題がある。算数科では，計算力がついてきているが，小さなミスが目立った。（12月）	・パワーアップタイムを利用し，週1日は，書く活動の時間を設け，全校で取り組み，書き方の指導をする。基礎計算の反復練習を行う。（7月） ・授業や日記等で，文章を書くことの指導の充実を図る。 ・パワーアップタイム等で百マス計算などの基礎計算の反復練習に引き続き取り組む。（12月）	4	各学力調査等の結果を分析し，焦点化しての課題克服に向けての取組により改善が見られた。
				・評価テスト(算数）で得点が期待平均点を超える児童の割合【石田】	75%	72%	96%	B	76%	101%	A				
			○対話(論理力を基にした言語活動）のある授業づくりによる活用力の育成	・評価テスト（国：読む力，算：考え方）の得点が観点別期待平均得点を超える児童の割合【石田】	75%	72%	96%	B	83%	111%	A	・文章を読み取る力はついている。算数科は，基礎を応用につなげることができていない。 ・目標は上回っている。対話力に関する児童アンケートでは，他の質問項目に比べ，「友達や先生の話を最後まで聞くことができる」という項目の肯定的回答の割合が低い。（7月） ・評価テストにおける読む力，考え方の得点としては改善した。 ・7月の時点で他の項目と比べて肯定的回答の低かった項目は改善しているが，今回の調査では，対話力に関するいくつかの項目で「そう思わない」と回答した児童がいた。（12月）	・引き続きパワーアップタイムで毎日のドリルに取り組み，読解力をつける。計算ドリル等を使い，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・相手意識をもって話を最後まで聞くことができるよう，話を聞く視点を与える等，授業の中で話を最後まで聞くことができるよう支援する。（7月） ・引き続き，論理を大切にした授業づくりを行っていく。 ・対話の苦手な児童に対しては，話型を示す，反応の仕方をいくつか示す等，個別の支援を心掛けている。（12月）	4	実際の授業の中で必然性のある対話場面を設定して指導が行われていることが分かる。しかし，そのことが児童んお思考深めることにつながっているかどうかの検証をしながら，継続した取組が望まれる。「対話」の質を高めていくこと。
				・「対話」のある授業づくりに関するアンケートで肯定的に評価する児童・教職員の割合【信田】	85%	95%	112%	A	95%	112%	A				
			○すすんで外国語でコミュニケーションを取ろうとする児童の育成	・外国語でのコミュニケーションに関するアンケートで，肯定的に評価する児童・教職員の割合【信田】	85%	95%	112%	A	98%	115%	A	・目標は上回っている。 「英語でやり取りや発表をするときには，自分の考えや気持ちなどを伝えています。」という項目で，全員の肯定的回答が得られた。（7月） ・ほとんどの項目で，「そう思う」と回答した人数が増加した。（12月）	・引き続き，「表現とその表現を使用する場面を一致させるために，指導者どうしの短い会話を見せる」という手立てや，本当のコミュニケーションになるように意識して授業を組み立てていく。（7月） ・授業では会話を楽しんでいる様子がうかがえる。今後も相手を意識したやり取りができるよう指導していく。（12月）	4	成果を見とる指標が明確であり，外国語でのコミュニケーション力の高まりが分かる。小中一貫教育の成果ともいえる。
豊かな心の育成		規範意識を高め，思いやりの心を育成する	○規律ある学校生活 あいさつ 無言掃除 無言集会	・一斉下校・朝会時等における全体指導 ・あいさつ名人の表彰 ・強化月間をもうけて指導・評価をおこなう	・「あいさつ・無言掃除・無言集会」に関する生活アンケートで，肯定的に自己評価する児童の割合・および教職員の見とり調査【山下】	80%	99%	124%	A	97%	121%	A	・おおむね良好な数値であるが，自己評価なので甘い部分がある。また，できない児童が固定化しているので個別に指導・支援をする必要がある。（7月） ・通学部会や一斉下校時の全体指導・児童会を中心とした点検活動・評価などにより，全体的に定着してきたように思われる。（12月）	・児童会を中心とした点検活動と評価（賞状など）を継続する。 ・一斉下校などで，活動の意義付けを図るとともに，全体の場で努力している児童を評価する。（7月） ・単なる点検活動・評価にとどまらず「なぜそうする方がよりよいのか？」を全校一斉指導や学級指導の中で再認識させる。（12月）	4	児童があいさつや無言掃除の大切さを理解したうえで行動に移すことのできる取組が行われている。「先に」「大きな」については継続した指導を。
						80%	94%	118%	A	98%	123%	A				
						80%	94%	118%	A	97%	121%	A				
			○思いやりの心の育成	・ふわふわ言葉の常態化をめざす生活指導 ・児童会掲示板による評価 ・道徳の時間の充実	「思いやりの心」に関するいじめアンケートで肯定的に評価する児童の割合【小川】	80%	98%	122%	A	98%	122%	A	・思いやりの心をもち友達と接しているが，全体の2%の児童がそうでないと答えている。（7月） ・2学期も2%の児童がどちらかといえばそう思わないと否定的な思いでいる。 ・教職員見取りでは，児童は思いやりの気持ちをもって生活していると判断している。2%の児童の気持ちに寄り添うことが必要（12月）	・思いやりの心を養うために児童会を中心に全校に言葉カード配布し友達の良いところを見つけ出す取り組みをする。教職員は肯定的な評価を行いながら、児童の気持ちを高めていく。（7月） ・給食時にニコニコボックスの児童評価を放送している。投稿の児童全て児童会役員が放送で紹介する。しっかり評価していき自己肯定感を高めていく。（12月）	4	「思いやりの心」については，見取が難しいと思うが，多面的な把握ができている。 言葉の大切さを感じさせる指導や，話し合い活動を通して心の育成が進んできている。
				・児童会掲示板による評価 ・道徳の時間の充実	「思いやりの心」育成に関する教職員アンケート結果（4段階評価の平均値）【小川】	80%	100.0%	125%	A	100%	125%	A				
健やかな体の育成		自ら目標をもち，進んで体力の向上，健康の保持増進に取り組む意欲・態度を育てる	○体力の向上	・児童の課題にあわせたランタイムの充実 ・水泳記録会・マラソン大会の自己目標の設定	新体力テストの分析に基づく取り組みの結果，平均を上回る項目の割合（11月時点）【和田】	70%	68.5%	98%	B	78.1%	112%	A	・新体力テストの課題種目は引き続き，50M走と，シャトルランであった。高学年になるにつれ良くなっていくことは変わりなかった。人数の少ない学級については個の記録が反映するため，個の指導が重要である。（12月） ・マラソン大会77%で，目標を達成することができなかった。前年度の結果を基に目標を立てる際，指導や子への声かけ等，配慮が必要だった。練習も本番も全体的によく頑張ったと思う。（12月）	・改善する種目について，運動の仕方，体の使い方などを全体指導する。（ランランタイムを活用） ・体育の授業でサーキットトレーニングを取り入れ，体力向上に努める。 ・学期ごとに児童に体力づくりに向けての目標をもたせ，それに向けての見通しをもたせて粘り強く取り組ませる。（12月）	3.7	組織的・継続的な体力づくりにより，成果につながっている。目標達成の感動を味わわせてほしい。
					・自己目標を達成した児童の割合（アを職員が見取る）【和田】	80%	98.6%	123%	A	77%	96%	B				
			○健康的で規則正しい生活の実践	・アンケートによる基本的生活習慣による実態把握 ・朝食・睡眠指導 ・保護者と連携した「ストップ9」の取組の継続	・朝食・睡眠に関するアンケートで，肯定的に評価する児童の割合【村上・出口】	80%	朝食86% 就寝78%	103%	A	朝食98.7% 就寝77.1%	110%	A	・朝食については欠食していたのは1名が1日のみであった。7月の時点より改善されてきている。 ・就寝時刻が守れていないのは，精神的に苦しい事象があり，寝付けない眠れないといったことがある児童がいたためであると思われる。 ・生活調べをすると早寝早起きができると保護者の方より感想が多くあった。きっかけづくりになっている。 ・「ストップ9」について低中学年において守れない児童が増えている。家庭の現状として守ることが難しくなってきている面もあるのではないか。（12月）	・朝食がしっかり食べられない理由を考えさせたり，朝食の内容等についての指導をする。1月の食育参観日に保護者へもしっかり話をしていく。 ・睡眠の大切さについて学級や全体で繰り返し指導する。 ・e-ネットキャラバンの実施，入学説明会での講話等，継続的に児童へも保護者へも啓発を続ける。（7月） ・「ストップ9」について，取組を継続すると供に目標値についてもその適正さについて検討をしてみる必要がある。（12月）	3.7	年間を通して計画的・継続的に取り組みが行われている。家庭と連携をとりながら，ルール作りを進めていく必要がある。
				・保護者アンケートでの，肯定的評価【玉井】	80%	82%	103%	A	70%	88%	B				

（自己評価）　達成度＝達成値÷目標値　A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

〔関係者評価〕　4：自己評価は適正である　3：ほぼ適正である　2：やや改善の必要がある　1：改善の必要がある　0：わからない